



大門小だより 6月号



学校
日

令和8年 5月 28日
横浜市立大門小学校

学校 HP(今日の給食を毎日掲載。学校の様子も定期的に更新!) <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/daimon/>

子どもの力を信じる

校長 大久保 作織

学校の紫陽花が少しずつ色づき始めました。雨の日でも校舎内では、「ナスもん」を探す1年生たちがあちこちで見られます。何人かは校長室をのぞき、「失礼します!」という挨拶がずいぶん上手になりました) 楽しそうにおしゃべりをしては、「またね~!」と教室に帰っていきます。



さて、先日の学校説明会にはたくさんの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。その際、4月に学校だよりで書いた「今年大事にしたいこと」の中から、「子どもの力を信じること」を取り上げてお話ししました。子どもは一人一人がかけがえのない存在であり、どの子ども可能性を秘めており、それぞれの力が発揮できるよりよい教育活動となるよう努めたい、という内容でした。



先日、こんな姿がありました。環境・栽培委員会の子どもたちは、昨年まで主に花壇の花の水やり等に取り組んできましたが、ある休み時間に廊下を見ると、自主的に掃除をしていたのです。「休み時間なのに頑張るね。」と声を掛けると、「どこが汚れているか確認しながら掃除しています。」とのこと。委員会で、今年学校のために自分たちに何ができるかを相談して決めたようです。今まで行っていた活動の枠を超え、「自分たちにできること」は何かを考えて行動していることが、とてもすてきだと思いました。

また、毎年行う「国際平和スピーチコンテスト」の校内選考会では、各学級の代表児童が「自分にできること」を考えながら、堂々と発表しました。私は毎年、発表者だけでなく、聞いている子たちの様子をよく見るのですが、今年の5・6年生は皆真剣に「聴いて」いました。真剣に伝える気持ちを受け取り、自分事として考えることができる子どもたちが育っていると感じました。普段の学習の場でも、このようにお互いを認め合う姿が見られます。私はそんな場に出会う度に、とても幸せな気持ちになります。

子どもたちはきっかけや場によって、自ら考え、よりよい方向へ踏み出す力をもっています。そして、その経験の積み重ねが自信となり、次の挑戦へとつながります。教職員としては、口を出さずに見守る忍耐力が必要ですが、これはなかなか難しいことです。つい、子どもが失敗しないよう、先回りをしがちです。しかし、私たち大人は、子どもの力を信じて待たなくてはならないのだと思います。多少の失敗を恐れず、チャレンジを続ける子を育てるために。

学校説明会では、「教育活動の発信」についてもお話しいたしました。子どもたち自身の言葉で発信していくことは、自分たちの活動を見つめ直し、その価値を実感する機会にもなります。今後、委員会等を利用し子どもたちからの発信も広げていけたらと考えています。